

## 令和2年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	34	学校名	静岡高等学校	記載者	須藤 秀幸
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<b>毎日の学習及び生活のリズムを確立する</b>	○「規則正しい生活をしている（生活のリズムを確立している）」と自己評価する生徒70%以上 ○あいさつができると自己評価する生徒80%以上	B	B	コロナ禍の中、生活リズムの確立は困難だったと予想されるが、昨年度より増加している。効果的な指導が行われていたと評価できる。生活リズムを乱す要因の分析を行い、指導が有効に生かされているか再評価してほしい。 あいさつに関しては、身だしなみ、マナーと併せて人としての品格の根幹をなす要素なので更なる向上を目指してほしい。
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心を喚起する	○授業を大切にす る生徒、主体的に 学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容が よくわかる」と自 己評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把 握した学力に基づ き授業改善に取り 組む教員90%以上	A	A	全体的に成果目標に達していると思われる。授業の様子からも熱心に授業を受けている生徒がほとんどで好感が持てた。ICTスキルが教師・生徒の双方で高められた点は評価できる。 ここ数年での教員の入れ替わりが多いとのことだが、クオリティの高い授業、知的好奇心を喚起する授業を行ってほしい。
ウ	<b>低学年からの高い志の育成に努め、進路実現を図る</b>	○進路行事実施後の進路意識の向上  ○第1志望（3年次当初）の大学に出願する生徒の割合70%	A	A	新型コロナ禍で制約が多い中、実施方法を工夫して対応できた点は評価できる。今後も従来の形での進路行事実施が困難と考えるので、効果的で負担の少ないメニュー開発が課題である。 知性を何のために磨くのか常に考える生徒の育成を期待するとともに高い志の育成をしてほしい。
エ	<b>学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに社会に貢献する</b>	○学校行事、部活動に積極的に取り組む生徒90%以上  ○1部活1社会貢献活動貢献活動	B	B	多くの行事、部活動が中止となる中で87%の生徒が積極的に取り組んでいると回答しており、「質の高い文武両道」を目指す経営計画と合致している。 1部活1社会貢献活動は素晴らしい取組なので、今後も継続してほしい。

様式第5号

オ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	○朝の読書週間 年2回実施  ○図書館開放 年 250日以上	B	B	臨時休業もある中で、年間235日の図書館会館に加え、生徒制作の「ブック★エンド」の質の高さは評価できる。ただ、読書活動の推進は課題を残している。
カ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	○学期1回以上の校内情報交換会  ○健康観察を通しての情報共有  ○学習環境の美化に努める生徒の育成、学期に1回の安全点検	A	A	休校後、スムーズに学校生活に適應できない生徒もいたが、SCの活用、情報交換会やケース会議の開催など、生徒一人一人に応じた対策がなされた点は評価できる。毎日の健康観察、定期的な安全点検が今後も確実に実施されることを望む。 ゴミの処理方法の徹底をお願いしたい。
キ	職員の校内外の研修を充実させる	○「育てたい資質・能力」を意識した授業改善に向けた研修機会の充実	A	A	授業力向上研修、ベテラン教員によるミニ講義が好評だった点は評価できる。また、「総合的な探究の時間」の更なる充実が重要である。外部の研修への積極的な参加を希望する。
ク	<b>新学習指導要領に対応した教育課程の編成の実施及び土曜オープンスクールの充実を図る</b>	「カリキュラム・マネジメント」の視点からの教育課程の編成 ○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1000人以上	A	A	新課程の趣旨を反映した新教育課程の編成、コロナ対策、新課程対応への対応が高い問題意識で行われている。 新型コロナ感染対策で1学期に実施できなかった中で、昨年を超えるオープンスクール参加者となったことは評価できる。
ケ	校内外のプログラムの活用を通し、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する。	○参加生徒、教職員の視野の拡大 ○各種プログラム参加者の増加と意識の向上	A	A	多くの研修が中止となった中、エンパワーメントプログラム、PDAディベート大会、WWLポスターセッション等で大きな効果が得られたことは評価できる。来年も交流、参加が困難と予想されるので、Webによる脱距離的な手法を活用するなどして、門戸を広くした交流、参加を期待する。
コ	<b>「学校における働き方改革」に組織的に取り組む</b>	○月80時間を超える時間外勤務教職員の前年比15%減 ○教育活動の検証、業務改善等、組織的改善の推進	A	A	コロナ禍の中、教職員の教育への努力には敬意を表すが、生徒・教員にとって必要度の高い業務を精選する努力を望む。 目標達成はできているが、社会全体の流れから比べるとまだ改革すべき点は多い。 校外の力を活用するのも良いのではないか。